

事例報告

学生ボランティア

— グローバルセンターにおける支援 —

森脇 あき (Aki MORIWAKI)

鳥取短期大学 幼児教育保育学科

はじめに

鳥取看護大学・鳥取短期大学（以下、両大学を本学と記す）は、開学以来「地域の発展に貢献する人材を育成する」を建学の精神として、さまざまな形で地域と関わり続けてきた。鳥取女子短期大学（1971～2000年度）時代、地域から寄せられるボランティアの申し込み、関連業務は、主に学生課が担ってきた。2007年度に地域交流センターが設置され、地域のボランティアに関する業務全般はセンターに一本化された¹⁾。その後、2017年4月に地域交流センターはグローバルセンターとして新たにスタートしたが、ボランティアや地域研究・交流に関する業務は、グローバルセンターが引き継いだ。グローバルセンター新設を機会に、地域と学生の架け橋となり、ボランティア活動を通して学生が人間的に成長することを意図し、従来の「学生ボランティア」に関する支援のあり方や業務の見直しを行った。現在、新たな方針に基づき、ボランティア活動を通して、学生が自主性と社会性を養うことを基本として、学生支援を行っている。

本稿では、グローバルセンターとしてのボランティア方針の再構築、学生・依頼主への情報提供や手続きの方法、ボランティア関連書類の作成等、ボランティア活動がより円滑になるよう改善した内容及び2017年度のボランティア実績を合わせて報告する。

1. ボランティアの意義

本学のボランティア支援について述べる前に、「ボランティアとは何か」を考えたい。ボランティアという言葉の起源は、ラテン語「volo（ウォロ、意志する）」から派生して名詞の「voluntas（ウォルンタス、自由意志）」、これに人を表す「-er」を付けて「volunteer（ボランティア）」という用語になったと一般に言われている²⁾。

ボランティアの定義について木村（2014）は、「わが国では用語の定義が明確でなく、混同されて使用されているのが現状である」と記す³⁾が、長沼（2008）は、「①ボランティア：自発的な行為、またはその人、②ボランティア活動：一般的に自らの意思で、意図的に・組織的に、見返りを求めずに行う、公益性のある活動で、社会に新たな価値を創出するもの、③ボランティア学習：ボランティア活動の持つ学びの側面、及びその学びの側面を生かして、意図的な教育活動として構成したものの総称、④ボランティア教育：ボランティア学習を推進するためのシステムの総称、⑤ボランティア学：ボランティアに関する学問の総称、⑥ボランティア教育学：教育学の視点でボランティアの諸相を解明する学問」とボランティアを整理している⁴⁾。

本学の学生ボランティアについては、①②にあたる「学生が自主性をもって、意図的・組織的に行う活動」を基本としている。さらにその活動は、公益的で地域社会との関わりがベースとなったものを推奨し、ボランティア体験を通してキャンパス内ではできない活動や交流、学びの機会を提供できる活動を意識して支援している。

2. 学生ボランティアの現状とグローバルセンターの役割

本学のボランティア情報はグローバルセンターが集約し、情報提供を行っている。全国の大規模大学では、ボランティア情報を取り扱う専門の独立部署として「ボランティアセンター」を設けている場合もあるが、本学は学生数1,000名に満たない比較的小規模な大学・短期大学であり、グローバルセンターが担う複数の業務に、ボランティア支援を組み込む形となっている。

グローバルセンターの取組みは大別すれば4つある。1つは海外研究・交流、2つ目は地域研究・教育・交流、3つ目は自治体・産業・企業および教育機関等連携、4つ目が「まちの保健室」研究・教育である。ボランティア支援は2つ目の地域研究・教育・交流に含まれ、主に地域から依頼のあったボランティアをとりまとめ、学生にボランティア情報の提供や紹介を行い、ボランティア活動がスムーズに行えるよう依頼先と学生ボランティアを繋ぐ役割を担っている。支援内容に関しては後述するが、活動を通して学生自身が成長する教育的意味合いを常に考慮している。

これまでの本学で行ったボランティア活動の取組み内容を振り返ってみると、鳥取短期大学では、「Sun-In 未来ウオーク」、「倉吉打吹まつり」、「中部発！食のみやこフェスティバル」、「因幡の手づくりまつり」、「くらし国際交流フェスティバル」など、地域のイベント行事にボランティアとして多くの学生が参加している。また、鳥取短期大学幼児教育保育学科の学生が県内はもとより島根・岡山県の幼稚園、保育所、認定こども園、障害者支援施設などに出かけ、オペレッタや歌・踊りなどの授業成果を発表している。これは学生の教育活動であると共に、継続的に地域の人々が楽しみにしている公演活動の一つとして根付いている。自主的、無償の活動という意味では、ボランティア活動に位置付けられよう。

鳥取看護大学では、大学の代名詞となっている「まちの保健室」や「赤十字学生奉仕団」の活動に力を入れている。鳥取県中部の公民館を始め県内各地で行われるイベント行事を中心に、学生と教職員と一緒に活動しているのが特徴であり、地域住民からは活躍を期待されている。2017年4月には、新たに「まちの保健室」専属のコーディネーターがグローバルセンターへ1名配置となり、地域と大学との連携役として活躍し、活動の幅は広がりつつある。

しかしながら、学外からグローバルセンターへ申し込まれるボランティアの内容や方法は実に様々であり、センター内では開設当初、ボランティア情報を整理し、理解するまでに時間がかかった。例えば、依頼については依頼主から直接センターへ依頼がある以外に、大学教員へ直接依頼がある場合もある。さらに、気軽に行えるボランティアもあれば、専門性を要する内容のもの、公益性が感じられない私的な協力要請まで幅広いことが明らかになった。また他大学の学生ボランティアに関する報告でも、人手の足りないところを安い労働力で補おうとしたボランティア等もあり、大学側で依頼内容の審査を行い、ボランティアを選別していると記されている⁵⁾。

本学のボランティア内容を見直してみると、他大学同様にアルバイトとしてもよい内容、あるいは宿泊を伴う介護ボランティア等がある。また専門性を要する内容や対象、加えてボランティア保険に加入していない団体等、全て依頼を受ける前にグローバルセンター内で選定する必要性があった。地域と大学の調整役としての仕組み等をより整備することが求められた。まず、学内外に対してボランティアに関する基本の考え方を明示するため、学内の有識者やグローバルセンター運営委員でもある兼担研究員の助言、意見を参考に、グローバルセンタースタッフで方針作成にとりかかった。

3. ボランティア方針と各種書類の整理

2017年度、スムーズなボランティア支援、調整、活動の充実を図ることを目的とし、ボランティアに関する方針をまとめ、手続きの方法、関係書類の作成・整理を行った。作成したボランティア関係書類一覧を次に掲載する。

図1は、「鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンターにおけるボランティア活動の情報提供および調整・支援に関する方針」である。まず方針案を本センタースタッフでまとめ、さらに学内の有識者やグローバルセンター運営委員の意見を参考に検討を重ね作成した。方針の前文には、「グローバルセンターは、鳥取看護大学・鳥取短期大学の学生に対して、ボランティアによる地域交流の場を提供し、活動から得た経験を個人の成長につなげる教育的効果と地域活性化に寄与することを目的として、下記に示す方針に則り、ボランティア活動の窓口として情報提供と調整・支援を行う。」という目的を記した。その上で、①公益性、公共性が高く各種法令に違反しない活動、②商業的宣伝や営利を目的とせず、公序良俗に反しない活動、③安全性が高く、身体的・精神的に害がなく、学業に支障を及ぼさない活動（人命に関わること、深夜・早朝に及ぶもの、宗教・政治活動や車両運転は禁止する）、④その他センターが適当と認めたもの、の4つを方針とした。

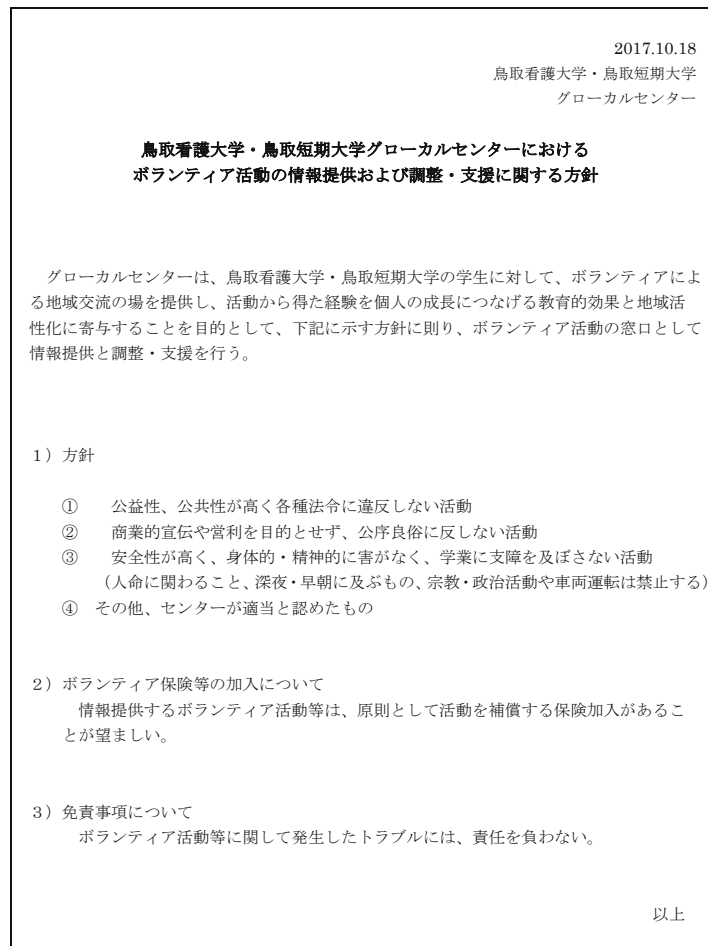


図1 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンターにおけるボランティア活動の情報提供および調整・支援に関する方針

次に、ボランティア手続きマニュアル（手続きの流れ）を作成した（図2）。他大学で利用されているボランティア活動の進め方の様式や、鳥取県社会福祉協議会のボランティアセンター活動ガイド、ボランティア情報誌の記事を参考にした。本学の方針に合致したボランティアか否かをチェックし、

採択の決定を判断する欄を設けた。鳴瀬ら（2016）の研究によると、他大学のボランティアセンターではボランティアを選定する理由として「個人のボランティア依頼は全く引き受けていない。なぜならば過去に身体障がい者からの依頼で、学生が対応しきれずトラブルに発展した事例がある」、また「人手不足を安い労働力で補おうとするボランティア募集の依頼も多くあり、団体には周知しているように見せかけて、実際は募集をかけていない」例も数多くあるという⁵⁾。こうした実情から“学生の学びの場となること”をあくまで基準とするとしている。本学においても、依頼があった時点で丁寧に精査し、方針に即しているか否か、学生の学びに繋がる内容方法でかつ安全性の高いものであるか、保険加入の有無等を確認することとした。さらに専門性の高い内容の場合には学部・学科へ相談し判断する、リーダーシップの必要な内容の場合には学生委員会（または学友会担当の教職員）へ相談する等、チェック項目をフローチャート様式のマニュアルの中に設定し、ボランティア担当者が変わったとしても手続きが一樣に円滑に進められるよう配慮した。

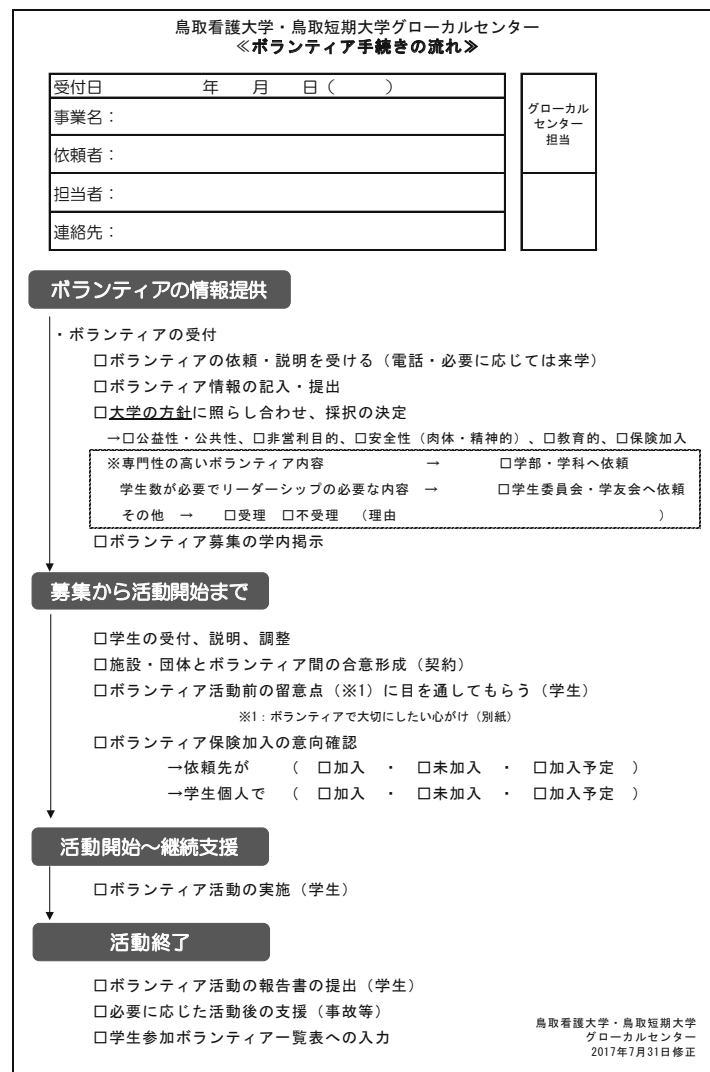


図2 ボランティア手続きマニュアル（センター用）

その他、ボランティア依頼主に対して図3の「ボランティア情報票」を作成し、情報提供がスムーズに行えるよう改善した。これにより依頼主は本学のホームページよりPDFまたはExcelにより様式の取得ができるようにした⁶⁾。ボランティア情報票について留意した点は、情報票1枚に必要な情報が盛り込まれ、情報票を見る学生にとって何よりわかりやすいことである。例えば、会場までの交通方法に関して、「集合場所までの交通手段」、「送迎あり・各自」、「最寄り駅」等を記すようにした。また

ボランティア経費の補助として、交通費の「支給あり・なし」、食事の「あり・なし」の欄を設けた。「交通費あり」の場合には、倉吉市からの補助（倉吉市交通費補助金制度⁷⁾の有無）まで記載を求めた。依頼主に倉吉市の交通費助成制度を周知するためである。さらに、ボランティアについての「事前説明会の有無」、「ボランティア保険加入の有無」も加えた。事前説明の有無、在り方にボランティアに対する依頼側の姿勢が読み取れるからである。またボランティア保険加入はボランティア活動の安全性が確保されているのかを確認できる。仮に保険加入をしていない場合には、依頼主に加入の必要性を伝え、加入を促した。それでも依頼主の保険加入が見込めない場合には、個人加入できる保険について学生へ紹介し、学生自身に任意でボランティア保険加入を勧めている。具体的には、倉吉市社会福祉協議会が扱う全国社会福祉協議会の「ボランティア活動保険」がある。基本タイプ・天災タイプがあり、それぞれAプラン・Bプランがあり、年間の保険料350～710円で1年間保証される内容であり、現段階では1日保険は扱われていない。グローバルセンターでは、上記の個人保険の資料を取り寄せ加入紹介をした上で、倉吉市社会福祉協議会の担当者と連携しながら支援を行っている。その他、ボランティアをより教育的視点で行ってもらうため、依頼主の記載欄に「参加学生に学んでほしいこと」、「参加学生へのメッセージ」欄等を設けた。学生がより意欲的に活動に取組むような募集情報の提供の意図からである。

ボランティア情報	
名称（イベント名）*	
主催者（法人・会社名等）*	
ボランティア担当・連絡先*	所属： 氏名： 連絡先：
イベントの主な対象者（複数可）*	①児童（乳幼児・小学生・中学生・高校生・障がい児） ②障がい者 ③高齢者 ④外国人 ⑤その他
分野	①医療・保健・福祉 ②自然・環境 ③メンタルヘルス ④国際協力・交流・在住外国人支援 ⑤人権 ⑥災害・防犯 ⑦文化・芸術 ⑧レクリエーション・スポーツ ⑨動物愛護 ⑩平和 ⑪まちづくり ⑫教育・学習
分野の該当番号（複数可）*	⑬その他（ ）
活動実施日時*	年 月 日（ ）： 開始 / : 解散
活動実施場所*	会場名： 住所：
ボランティア集合日時*	年 月 日（ ）： 集合
ボランティア集合場所*	会場名： 住所：
集合場所までの交通手段*	送迎あり ・ 各自
送迎場所（送迎ありの場合）	
集合場所の最寄駅等	最寄駅： バス停：
経費補助*	交通費： あり ・ なし 食事： あり ・ なし →※ありの場合：倉吉市交通費補助金制度の利用（あり ・ なし）
学生に対する活動中の保険* （※移動を含む）	加入： あり ・ なし 加入先： 保険名：
募集定員*	名
応募期日*	年 月 日（ ）： まで
申込方法*	TEL ・ FAX ・ E-mail ・ 郵送
ボランティアの実施内容*	
実施内容説明会の有無*	事前説明会： あり ・ なし 当日説明会： あり ・ なし
実施内容説明会日時	年 月 日（ ）： 開始 / : 解散
実施内容説明会実施場所	会場名： 住所：
参加学生に学んでほしい事	
参加学生に向けてのメッセージ	
注意事項	
備考（服装、持参物など）	
※*は必須項目です。記入欄がある場合、ご依頼いただいても受理できませんのでご注意ください。	
グローバルセンター記入欄	鳥取看護大学・鳥取短期大学 グローバルセンター TEL 0858-27-0107 FAX 0858-26-9138 E-mail global@ns.cygnus.ac.jp
受付日： 年 月 日	
受付NO	

図3 ボランティア情報票（依頼者用）

※依頼主記入→センター→掲示版→学生へ情報提供

学生に対しては、ボランティア活動前の「ボランティア申込書」（図4）、活動後の「ボランティア活動報告書」（図5）の2つを作成した。申込書については、センター側の申込者把握のためである。報告書は、方針の前文に記しているように、活動から得た経験を個人の成長につなげる教育的効果

目的としているからである。活動を振り返りながら報告書を記入し、学びに繋げて欲しいと願い、学生には任意ではあるがセンターへ報告書を提出するよう求めている。

【ボランティア申込書】		記入日： 年 月 日
ボランティア イベント名： []		
<input type="checkbox"/> 鳥取看護大学 <input type="checkbox"/> 鳥取短期大学 (□専攻科生) <input type="checkbox"/> 国際文化交流学科 <input type="checkbox"/> 情報・経営専攻 <input type="checkbox"/> 住居・デザイン専攻 <input type="checkbox"/> 食物栄養専攻 <input type="checkbox"/> 幼児教育保育学科		
学年： 年生	学生番号：	
ふりがな		
氏名		
TEL (必ず連絡がとれる電話番号) ※主催者に伝えます		
mailアドレス		
活動日時	年 月 日 () : ~ : 年 月 日 () : ~ :	
鳥取看護大学・鳥取短期大学 グローカルセンター TEL(0858)27-0107 FAX(0858)26-9138		

図4 ボランティア申込書 (学生用)

ボランティア活動報告書		記入日： 年 月 日
<input type="checkbox"/> 鳥取看護大学 <input type="checkbox"/> 鳥取短期大学 (□専攻科生) <input type="checkbox"/> 国際文化交流学科 <input type="checkbox"/> 情報・経営専攻 <input type="checkbox"/> 住居・デザイン専攻 <input type="checkbox"/> 食物栄養専攻 <input type="checkbox"/> 幼児教育保育学科		
学年	年・学生番号	氏名
活動名		
主催団体		
主催団体	(連絡先)	(担当者)
活動日時	年 月 日 () : ~ : 年 月 日 () : ~ :	
対象 ※複数◎可	<input type="checkbox"/> 乳幼児 <input type="checkbox"/> 小中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 障がい児 <input type="checkbox"/> 障がい者 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> 一般 (全年齢)	
活動内容 (種類) ※複数◎可	<input type="checkbox"/> 医療・保健・福祉 <input type="checkbox"/> 自然・環境 <input type="checkbox"/> メンタルヘルス <input type="checkbox"/> 国際協力・交流・在住外国人支援 <input type="checkbox"/> 人権 <input type="checkbox"/> 災害・防犯 <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> レク・スポーツ <input type="checkbox"/> 動物愛護 <input type="checkbox"/> 平和 <input type="checkbox"/> まちづくり <input type="checkbox"/> 教育・学習 <input type="checkbox"/> その他 ()	
参加した感想 (◎を記入)	◆満足度 <input type="checkbox"/> 大変満足 <input type="checkbox"/> やや満足 <input type="checkbox"/> やや不満 <input type="checkbox"/> 不満 ◆交流の機会 <input type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> ややあった <input type="checkbox"/> ややなかった <input type="checkbox"/> 全くない ◆また参加したい <input type="checkbox"/> 思う <input type="checkbox"/> やや思う <input type="checkbox"/> やや思わない <input type="checkbox"/> 思わない ◆危険な場面 <input type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった →あった：具体的な場面 () ◆学びの機会 <input type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった <input type="checkbox"/> わからない →あった：内容 ()	
準備しておけば良かったと思う事		
困ったこと		
ボランティア先への要望		
次に繋げたいと思ったこと		
その他興味のあるボランティアの分野 (複数可)	<input type="checkbox"/> 医療・保健・福祉 <input type="checkbox"/> 自然・環境 <input type="checkbox"/> メンタルヘルス <input type="checkbox"/> 国際協力・交流・在住外国人支援 <input type="checkbox"/> 人権 <input type="checkbox"/> 災害・防犯 <input type="checkbox"/> 文化・芸術 <input type="checkbox"/> レク・スポーツ <input type="checkbox"/> 動物愛護 <input type="checkbox"/> 平和 <input type="checkbox"/> まちづくり <input type="checkbox"/> 教育・学習 <input type="checkbox"/> その他 ()	
鳥取看護大学・鳥取短期大学 グローカルセンター TEL(0858)27-0107 FAX(0858)26-9138		

図5 ボランティア活動報告書 (学生用)

※ボランティア活動実施後に記入→センターへ提出

4. 2017年度のボランティア実績

2017年4月～2018年1月末までにグローバルセンターに依頼のあった学生ボランティアの実績は、鳥取県内58件のボランティア申込みがグローバルセンターにあり、うち22件に学生のべ74名がボランティアに参加していた。両大学（2017年5月1日時点、鳥取看護大学生246名、鳥取短期大学生554名在籍）の学生数の9.4%が、ボランティアに参加したこととなる。

表1は、2017年度グローバルセンターを通してボランティアに参加した学生の参加の内訳を、性別、学科別に示したものである。性別では、男子学生24名（32%）、女子学生が50名（68%）である。大学別に見ると、鳥取看護大学の学生は2年生が8名と多く、次いで3年生6名、1年生3名の順で、合計17名がボランティアに参加している。これは両大学のボランティア参加者の23%にあたる。鳥取短期大学の参加内訳は、国際文化交流学科の1年生6名、2年生5名の合計11名（15%）、情報・経営専攻は1年生2名、2年生が8名の合計10名（13%）、住居・デザイン専攻1年生7名、2年生7名の合計14名（19%）、食物栄養専攻1年生4名、2年生2名の合計6名（8%）、幼児教育保育学科は、1年生10名、2年生6名の合計16名（22%）であった。鳥取短期大学のボランティア参加率は77%であった。ボランティアに参加する学生について見てみると、比較的高学年より、低学年の学生が多い傾向にあることがわかる。これは、看護大学では3年生から臨地実習がはじまること、短大では2年次に就職活動が始まることと関係していると考えられる。なお、表1に示したボランティア参加学生数には、大学・学科に属する活動団体がボランティア依頼を受けて参加したものは含まれておらず、それらを合わせると本学でのボランティア参加者の割合は、表1に示したボランティア数・学生数より更に増える（詳細は、本年報p.59を参照いただきたい）。

表1 2017年度ボランティア参加学生の性別・大学・学科別集計結果

		人数 (%)		
		n=74		
性別	男子学生	24 (32%)		
	女子学生	50 (68%)		
鳥取看護大学	1年生	3	17 (23%)	
	2年生	8		
	3年生	6		
鳥取短期大学	国際文化交流学科	1年生	6	11 (15%)
		2年生	5	
	生活学科情報・経営専攻	1年生	2	10 (13%)
		2年生	8	
	生活学科住居・デザイン専攻	1年生	7	14 (19%)
		2年生	7	
	生活学科食物栄養専攻	1年生	4	6 (8%)
		2年生	2	
	幼児教育保育学科	1年生	10	16 (22%)
		2年生	6	
		専攻科生	0	

5. ボランティア報告書（2017年度）の集計結果

2017年度（4月～1月末まで）ボランティアに参加した学生が提出した報告書の集計結果を示す。

（1）調査対象者

本学の本科生および専攻科生で、グローバルセンターへボランティアを申し込み、かつ報告書を提出した学生

（2）調査時期

2017年6月～2018年1月末の8か月間

（3）調査方法

ボランティアに参加した学生へ報告書（アンケート）用紙を配布、任意で提出を求めた。
回収率：52.7%（74名中、39名が提出）

（4）調査結果の概要

表2は、報告書を提出した学生の性別、大学・学科・学年別の集計である。男子学生が13名（33%）、女子学生が26名（67%）であった。

鳥取看護大学生の学年別参加者数は、2年生が9名、3年生が1名の合計10名（26%）であった。

鳥取短期大学生の学科・学年別参加者数は、国際文化交流学科の1年生が5名、2年生3名の合計8名（20%）。生活学科情報・経営専攻1年生が3名、2年生が1名の合計4名（10%）、生活学科住居・デザイン専攻1年生が1名、2年生が2名の合計3名（8%）。生活学科食物栄養専攻1年生が2名、2年生が0名の合計2名（5%）。幼児教育保育学科1年生が11名、2年生が1名の合計（31%）。鳥取短期大学生の合計は29名（74%）であった。

表2 ボランティア報告書における学生の性別・大学・学科別集計結果

		人数 (%)	
		n=39	
性別	男子学生	13	33%
	女子学生	26	67%
鳥取看護大学	1年生	0	
	2年生	9	10 (26%)
	3年生	1	
鳥取短期大学	国際文化交流学科	1年生	5
		2年生	3
	生活学科情報・経営専攻	1年生	3
		2年生	1
	生活学科住居・デザイン専攻	1年生	1
		2年生	2
	生活学科食物栄養専攻	1年生	2
		2年生	0
	幼児教育保育学科	1年生	11
		2年生	1
専攻科生		0	

図6は、ボランティア先での対象者の分類について示している。一般（全年齢）が25名（39%）と一番多く、次いで小中学生が16名（25%）、乳幼児が9名（14%）、高校生4名（6%）、障がい者4名（6%）、障がい児3名（5%）、高齢者3名（5%）の順であった。

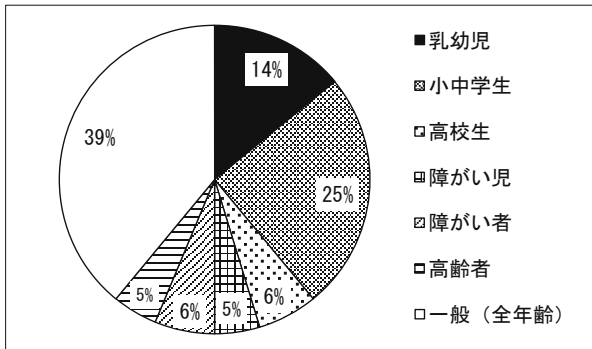


図6 ボランティア先の対象者

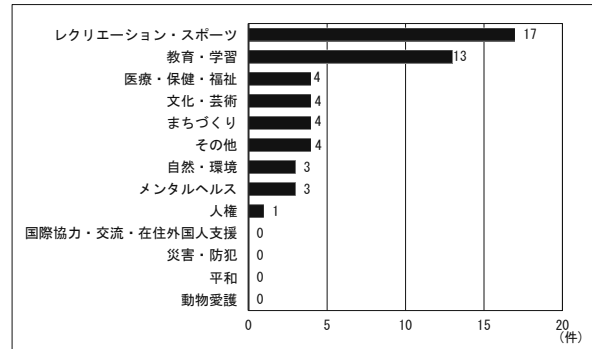


図7 ボランティア活動内容（複数回答）

図7は、ボランティアの活動の内容を示しており、レクリエーション・スポーツが17名と一番多く、教育・学習が13名、医療・保健・福祉、文化・芸術、まちづくり、その他が各4名と続いている。

表3 報告書のアンケート結果

(n=39)					
満足度	大変満足	やや満足	やや不満	不満	未記入
	17	21	0	0	1
交流の機会	あった	ややあった	ややなかった	全くない	未記入
	18	16	4	0	1
また参加したい	思う	やや思う	やや思わない	思わない	未記入
	11	24	1	0	3
危険な場面	あった	なかった	未記入		
	3	35	1		
学びの機会	あった	なかった	わからない	未記入	
	19	0	17	3	

表3は、報告書から「満足度」について問った結果を示している。この調査対象の学生たちは、ボランティアへ自主的に申し込んだ学生であることもあり、「大変満足」と「やや満足」が38名（97%）と、満足度は高いことが伺える。対象者や運営者との交流の機会は「あった」と「ややあった」とする学生が34名（87%）、また参加したいと思うと答えた学生は、「思う」と「やや思う」が合わせて35名（89%）で、大半の学生が次回もボランティアに参加したいと回答している。一方、学びの機会については、「あった」とする学生が19名（48%）、「わからない」とする学生が17名（43%）であった。

表4は、報告書の質問項目より学びの機会が「あった」とする学生に、どのような学びがあったかの記述を求め、それをまとめたものである。ボランティア活動をすることで対象者や依頼者が喜んでくれた嬉しさと達成感があること、イベント運営の方法や講演会から知識を得たこと、人と人が関わる上でのコミュニケーションやアプローチの方法、物事を行う前の準備の必要性など、様々な体験から気づきや学びを得たことが伺える。

表4 学びの機会があった学生の記述内容

- ・自分たちが一生懸命踊ることで喜んでくださる方がいた
- ・地域の方と触れ合う良さ、大切さを改めて感じた
- ・ウォーキングに年齢や国籍は関係ない
- ・企画の運営等
- ・どのように企画が展開されているか
- ・伝えようと思っても、伝え漏れがあるため注意する
- ・子どもとの触れ合い方
- ・なかなか集中力が続かない子に対して、どのようなアプローチが必要か考える機会があった
- ・小学4～6年生の特徴を観察することができた
- ・子どもや人を支援することについて学ぶことができた
- ・年代ごとの考え方の違い
- ・活動しながら講演を聞くことができた
- ・絵本の読み聞かせに参加できた
- ・事前準備の大切さ
- ・声をかけるタイミングや案内の仕方
- ・桜の植え方やどうやったら育つかわかった
- ・障がい者との接し方

図8は、参加したボランティア以外に興味のあるボランティア分野を聞いた（複数回答可）結果である。レクリエーション・スポーツが17名（43%）、次いで文化・芸術、教育・学習が各10名（25%）、自然・環境が9名（23%）の順である。体を動かすレクリエーション・スポーツは学生の人気も高い。また教育、学習、医療・保健・福祉に次いで、まちづくりや国際協力・交流・在住外国人支援にも興味を示している。大学での学びを背景にし、様々な分野や地域活動に興味を持っていることが伺える。

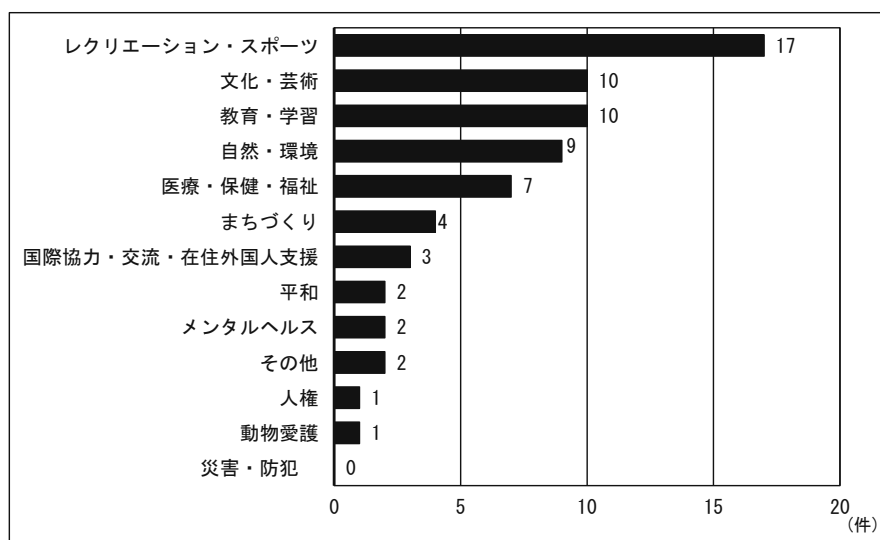


図8 興味のあるボランティア分野（複数回答）

おわりに

本稿では、2017年度に行ったボランティア支援に関連する方針の申し合わせや関連書類の改正、改善内容を示し、それに従ってグローバルセンターがコーディネートした2017年度の学生ボランティアの参加実態について報告した。学生のボランティア参加者は数字上決して多くはないが、年に数回ボ

ランティアに参加する学生、継続的活動を続けている意欲的な学生もいる。ボランティアに参加した学生の満足度は高く、様々な分野のボランティアに興味を持っている。

その後もグローバルセンターの方針に則り、ボランティア情報をホームページ掲載や学内掲示、対外的な手続きを行い、学生のボランティアへの支援は順調に進行している。また職員の中には、ボランティアコーディネーター資格を取得し研鑽を積み、センターの取組みを一層進化するため専門性を高めているものもいる。ボランティア体制が確立し、依頼先や行政等関係機関との連携を密にすることで、よりよい学生のボランティア活動や学生の人間的な成長に繋げることが、時代の要請でもあるソーシャル・キャピタルの一端を担う大学としても重要である。平井伸治鳥取県知事も“日本一のボランティア先進県”を県政の重要な目標の1つに掲げている⁸⁾。

私たち「地域と共にある大学」としても「ボランティア活動の一層の推進」をと思う。グローバルセンターの役割は重要である。

《注》

- 1) 鳥取短期大学 40 周年記念誌編集委員会 (2011) 『鳥取短期大学 40 周年記念誌』 学校法人藤田学院 鳥取短期大学、pp. 177-178
- 2) 岡本栄一 (2005) 『ボランティアのすすめ—基礎から実践まで—』 ミネルヴァ書房、p. 24
- 3) 木村佐枝子 (2014) 『大学と社会貢献—学生ボランティア活動の教育的意義—』 創元社、p. 66
- 4) 長沼豊 (2008) 「新しいボランティア学習の創造」 ミネルヴァ書房、pp. 27-62
- 5) 鳴瀬剛大・市居利絵・築地佑人 (2016) 「大学におけるボランティアセンターのあり方～先駆的調査と本学ボランティア支援の課題から～」 『桃山学院大学総合研究所紀要』 第 42 巻第 2 号、pp. 73-104
- 6) 鳥取短期大学ホームページ掲載 (ボランティア情報) <http://www.cygnus.ac.jp/studentonly/volunteer/volunteer.html>
- 7) 倉吉市交通費補助金制度とは、倉吉市が県内の大学生及び専門学校生等の倉吉市内でのボランティア活動やイベント運営への参加を促すため、イベント等を主催する団体に、参加学生の交通費相当額の補助金を交付する制度。
- 8) 地域構想研究所編 (2016) 『地域人』 第 5 号、大正大学出版会、pp. 84-85、平井伸治鳥取県知事記事